



平成 30 年 11 月 26 日

報道機関 各位

エナメル質形成不全（むし歯になりやすい歯の異常）は西高東低 ～日本小児歯科学会全国調査の結果から～

日本小児歯科学会と富山大学の共同研究において、小児のエナメル質形成不全の割合は、西日本で高く、東日本で低い、西高東低の分布を示すことが明らかになりました。永久歯の奥歯（第一大臼歯）と前歯（中切歯）のエナメル質は出生直前後の時期に形成されますが、エナメル質形成不全は、歯の色が変化し、特に前歯では審美的な問題があること、歯の質が低下するため、むし歯になりやすいことから近年注目されています。しかし、全国規模の調査で、エナメル質形成不全を持つ小児の割合（有病率）や、その地域間の差が明らかになったのは初めてのことです。

調査は、日本小児歯科学会臨床研究推進委員会（委員長：北海道医療大学 齊藤正人教授）が、平成 27 年（2015 年）10 月から平成 28 年（2016 年）1 月の間に、全国 47 都道府県の 388 歯科施設の協力を得て、7 歳から 9 歳の健常児童 4,985 人に対して、日本小児歯科学会認定小児歯科専門医による診察と質問票を用いて実施しました。そのうち、エナメル質形成不全の情報などが完全であった 4,496 人を分析の対象としました。分析は、富山大学地域連携推進機構地域医療保健支援部門で行われ、大学院生の浅香有希子歯科医師と関根道和教授らが担当しました。

その結果、エナメル質形成不全の有病率は、日本全体で 19.8%でした。地域別では、北海道（14.0%）、東北（11.7%）、関東信越（18.5%）、東海北陸（19.3%）、近畿（22.3%）、中国（19.8%）、四国（28.1%）、九州（25.3%）であり、全体として西高東低の地域差を認めました。最も高い四国は、最も低い東北の 2.4 倍になります。

詳細は、Environmental Health and Preventive Medicineに掲載されました。今後、エナメル質形成不全の西高東低の地域差が発生する背景について、詳細な研究が望まれます。

取材可能日時

11月27日（火）9：00－11：00 13：00－17：00
11月28日（水）9：00－11：00
11月29日（木）9：00－11：00
11月30日（金）9：00－11：00 13：00－17：00

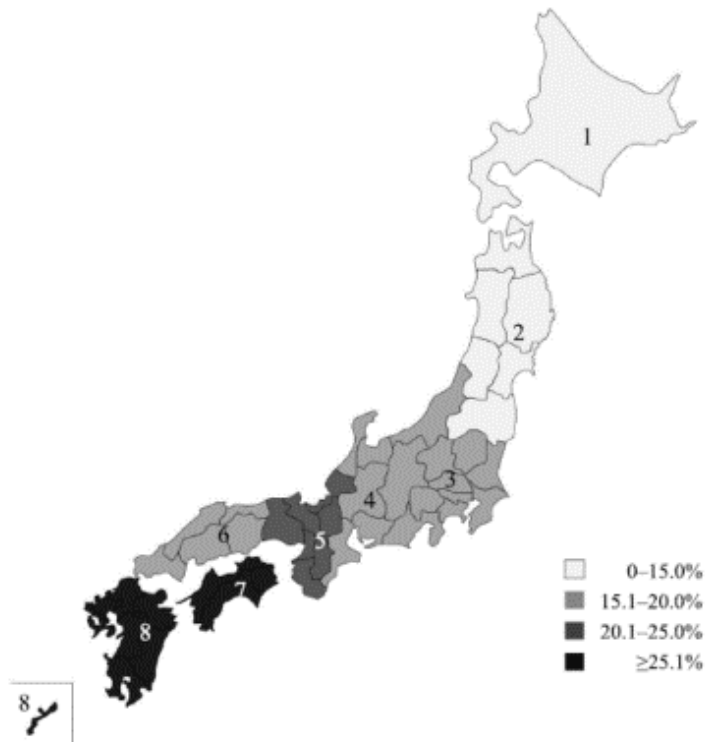
【本件に関する問い合わせ先】

富山大学地域連携推進機構
地域医療・保健支援部門長 関根 道和
930-0194 富山市杉谷 2630
TEL 076-434-7270 FAX 076-434-5022
E-mail: sekine@med.u-toyama.ac.jp

エナメル質形成不全の有病率における地域差

左右上下の第1大臼歯のいずれかに形成不全がある場合をエナメル質形成不全と診断して、厚生労働省の管轄地域によって日本全体を8地域に区分し、各地域ごとの有病率を算出しました。

1. 北海道 14.0%
2. 東北（青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島） 11.7%
3. 関東信越（茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野） 18.5%
4. 東海北陸（富山、石川、岐阜、静岡、愛知、三重） 19.3%
5. 近畿（福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山） 22.3%
6. 中国（鳥取、島根、岡山、広島、山口） 19.8%
7. 四国（徳島、香川、愛媛、高知） 28.1%
8. 九州（福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄） 25.3%



【出典】

Saitoh M, Nakamura Y, Hanasaki M, Saitoh I, Murai Y, Kurashige Y, Fukumoto S, Asaka Y, Yamada M, Sekine M, Hayasaki H, Kimoto S. Prevalence of molar incisor hypomineralization and regional differences throughout Japan. *Environmental Health and Preventive Medicine* 2018 23:55 (<https://doi.org/10.1186/s12199-018-0748-6>)

エナメル質形成不全について

- エナメル質形成不全の定義
歯は、象牙質、セメント質、エナメル質などからなっており、歯の最も表面部分にあるのがエナメル質です。エナメル質形成不全は、エナメル質が正常に形成されない病気です。
- エナメル質形成不全の診断
エナメル質形成不全には、軽度と重度のものがあります。軽度の場合は、生えたばかりの歯であるにもかかわらず、黄色や茶色に変色していることが特徴です。重度の場合は、歯の欠損が特徴で、歯にデコボコがあり、内部の象牙質が見える場合もあります。
- エナメル質形成不全の問題
エナメル質が正常に形成されないと、歯の質が低下することから、むし歯になりやすくなることが知られています。また、しばしば前歯では審美的な問題となります。
- エナメル質形成不全の原因
妊娠中から乳幼児期までの歯の形成時期の種々の要因によって起こるとされます。乳歯の形成不全は、早産や栄養障害、妊娠中の抗生物質の服薬などが、永久歯の形成不全は、感染症、栄養障害、乳歯のむし歯や外傷などが考えられています。
- エナメル質形成不全の治療
軽度の場合はフッ素塗布、重度の場合はセメント等による補強を行います。

調査関係者

- 公益社団法人 日本小児歯科学会
理事長 木本茂成（神奈川歯科大学歯学部教授）
- 公益社団法人 日本小児歯科学会 地方会連絡協議会
委員長 高野 博子（高野歯科クリニック院長（東京））
- 一般社団法人 日本小児歯科学会 臨床研究推進委員会
委員長 齊藤 正人（北海道医療大学歯学部教授）
委員 早崎 治明（新潟大学大学院医歯学総合研究科教授）
他
- 富山大学地域連携推進機構地域医療保健支援部門
部門長 関根 道和（富山大学大学院医学薬学研究部教授）
部門員 山田 正明（富山大学大学院医学薬学研究部助教）
- 富山大学大学院医学薬学研究部疫学健康政策学講座
大学院生 浅香 有希子（あすなろ小児歯科（富山） 歯科医師）